

福祉実践教室で学んだ内容をもとに、「障害があっても一緒に遊べる工夫」を考え、地域の人に提案することを単元のゴールに設定しました。第9～12時は、クラス内でアドバイスし合い、課題を改善して発表会を行う時間です。「他者の評価から自分の課題を把握する」（調整）「地域の方々との交流を通して学びを深める」（協働）場面を仕組みました。



学習計画へ

他の班と
デモンストレーション

他の班へのアドバイスを
書き込む姿

地域の方々を招いた
発表会

【他者の評価から自分の課題を把握する】

他の班の遊びを体験し、アドバイスし合いました。視覚障害体験を考えた班では、「サポートしすぎるとやりがいを感じられない」というアドバイスを受け、福祉実践教室で「障害があっても難しいことに挑戦したい気持ちはある」と聞いたことを思い出しました。そこで、接触や転倒の危険がある場合や、要望があった場合にのみサポートするように修正するなど、発表会に生かそうとする姿が見られました。

【地域の方々との交流を通して学びを深める】

地域の方々を招いて、発表会を行いました。会の中で視覚障害のある方でも一緒に遊ぶことができる工夫を提案しました。地域の方から「サポートを必要とする人と出会ったときは、迷わず行動してほしい」という考えを聞き、「サポートを必要とする人がいたら声をかけていきたい」と、日々の生活に生かそうとする姿が見られました。

教師の働きかけ

遊びを考える前に、福祉実践教室で学んだ「安心」「安全」「思いやり」「やりがい」「楽しさ」のキーワードを確認しました。相手のことを考える視点をもって活動に取り組むことで、改善策が出せるようにしました。

福祉実践教室で学んだことから、「福祉の考え方で大切にしたい思い」を班で共有させ、何度も確認しながら計画・準備を進めるようにしました。

地域の方々にも活動を知っていただき、支え合う地域となるよう、地域の方を招いた発表会をもちました。

地域の方の感想を見聞きする場をつくり、子供たちの考えが広がるような機会としました。

班で設定した「福祉の考え方で大切にしたい思い」を何度も確認することで、その思いと照らし合わせながら周囲の意見を聞き、自分の課題を把握し、修正するかどうかを話し合う姿が見られました。

地域の方々との交流で、自分の生活に立ち返る考えを聞いたことで、学校生活でも、友達を想う言動が表出するようになりました。

